

政策2

元気で健やかに暮らせるまち

＜健康福祉分野＞

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 01 地域福祉の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	地域で助け合い、支えあいができる環境が整っています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	地域で手助けしたり、されたりする環境が整っていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	46.5	53.8	52.4	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は52.4%で、平成29年度より1.4ポイント減少しましたが、後期基準値より5.9ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 支えあいできていると思う割合は、65歳から74歳までの世代で増加したものの、30歳代及び40歳代で減少しています。また、特に30歳代及び40歳代で「わからない」と回答した割合が増加しており、若い世代の間で地域との関わりが減少していることも要因の1つと考えられます。</p>								目標 達成度 ■■■ (高)

□基本事業の成果状況と評価

- 基本事業 01 地域福祉意識の醸成と担い手支援
- 基本事業 02 多様な地域福祉活動の推進
- 基本事業 03 地域で見守りあう仕組みづくり

基本事業01 地域福祉意識の醸成と担い手支援

指標①	福祉活動に取り組む意識がある市民割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	59.8	56.9	54.7	→	☁️ (横ばい)
評価	(状況) 平成30年度は54.7%で、平成29年度より2.2ポイント、後期基準値より5.1ポイント減少しています。 (原因) 特に20歳代から40歳代までにおいて、「今後行ってみたい」と答えた割合が減少し、また「興味や関心がないので行う気はない」と回答した割合が増加していることから、若い世代において福祉活動への興味関心が低下していることが要因と考えられます。									☀️ (横ばい)
					目標達成度	■■ (中)				

基本事業01 地域福祉意識の醸成と担い手支援

指標②	この1年間に福祉活動に取り組んだことがある市民割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	11.8	15.7	16.1	→	☀️ (横ばい)
評価	(状況) 平成30年度は16.1%で、平成29年度より0.4ポイント、後期基準値より4.3ポイント増加しています。 (原因) 20歳代及び30歳代の世代において、福祉活動に対する興味関心が低下している一方で、65歳から69歳まででは福祉活動を行っている方の割合が増加しており、世代による福祉活動に対する意識の違いが全体的に微増となった要因と考えられます。									☀️ (横ばい)
					目標達成度	■■ (中)				

基本事業02 多様な地域福祉活動の推進

指標①	福祉活動を行っている団体・事業者数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	社会福祉課	団体	189	199	203	220	☀️ (横ばい)
評価	(状況) 平成30年度は203団体で、平成29年度より4団体、後期基準値より14団体増加しています。 (原因) 高齢化に伴う介護サービスへの需要が増加したため、介護保険関係事業者が増加したことが要因です。									☀️ (横ばい)
					目標達成度	■■ (中)				

基本事業02 多様な地域福祉活動の推進

指標②	民生委員・児童委員の年間平均活動日数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	その他	社会福祉課	日/年	143	154	154	→	---
評価	(状況) 平成30年度は154日で、平成29年度と同日で、後期基準値より11日増加しています。 (原因) 関係機関の連携強化等による包括的支援が順調に機能してきていることが要因と考えられます。									---
					目標達成度	---				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 地域で見守りあう仕組みづくり

指標①	良好な近所づきあいができている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	—	50	40.5	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は40.5%で、平成27年度の47.8%より7.3ポイント、平成29年度より9.5ポイント減少しています。 (原因) 近所づきあいができているとする割合は、特に30歳代から60歳代までの各年代において減少しており、道端で挨拶をするような関係性はあるものの、積極的なコミュニティへの興味関心が低いことが要因と考えられます。</p>								(低下)
				目標達成度	■■■ (中)				

基本事業03 地域で見守りあう仕組みづくり

指標②	日常生活における見守り協定を締結している事業者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	社会福祉課	件	2	7	8	8
評価	<p>(状況) 平成30年度は8件で、平成29年度より1件、後期基準値より6件増加し、後期目標値を達成しています。 (原因) 企業のCSR(社会的責任)に対する関心の高まりにより、企業側から理解や協力を得られていることが要因と考えられます。</p>								(向上)
				目標達成度	■ (達成)				

基本事業03 地域で見守りあう仕組みづくり

指標③	災害時において要援護者を見守り合う仕組みがある地域割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	社会福祉課	%	23.4	36.2	23.4	50
評価	<p>要援護者避難訓練を実施した行政区の割合 (状況) 平成30年度は23.4%で、平成29年度より12.8ポイント減少していますが、後期基準値と変化はありません。 (原因) 行政区を対象としたアンケートにおいて、約7割の行政区が、町内会や自主防災組織等による避難行動要支援者の支援や取組が行われていると回答しているものの、平成30年度は、指標値の算定基準である要援護者避難訓練を実施した行政区が減少したことが要因です。</p>								(横ばい)
				目標達成度	■■■ (中)				

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 02 健康づくりの推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	市民が健やかに育ち、健康に暮らしています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自分が健康だと思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	%	76.2	75.8	76.6	
評価	(状況) 平成30年度は76.6%で、平成29年度より0.8ポイント、後期基準値より0.4ポイント増加しています。 (原因) 65歳以上の方が平成29年度より3.8ポイント、後期基準値より2.9ポイント増加していることが要因となっています。一方で30歳代から50歳代までは減少し、特に40歳代は平成29年度より4.8ポイント、後期基準値より6.9ポイント減少しており健康観には、体力や疾病ばかりではなく、ストレスなどの精神的な健康不安が影響すると考えられます。								☀ (横ばい)
									■■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01	生活習慣の改善
基本事業 02	疾病予防・早期発見・早期治療の推進
基本事業 03	母子保健の充実
基本事業 04	食育の推進
基本事業 05	医療体制の充実

基本事業01 生活習慣の改善

指標①	健康に良い生活習慣の平均実践項目数（全12項目中）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	項目	5.2	5.89	5.85	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は5.85項目で、平成29年度より0.04項目減少しましたが、後期基準値より0.65項目増加しています。 (原因) 平成29年度との比較では、20歳代が0.26項目、65歳から69歳までが0.60項目減少しており、一方で、後期基準値との比較では、全ての年代で増加しています。特に70歳から74歳まででは、後期基準値より1.09項目、平成29年度より0.66項目と大きく増加しており、年齢が高くなるにつれ健康に良い生活習慣を意識して実践していることが要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療の推進

指標①	1年に1回健康診断を受けている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	%	76.9	80.6	82.5	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は82.5%で、平成29年度より1.9ポイント、後期基準値より5.6ポイント増加しています。 (原因) 65歳未満で平成29年度より1.3ポイント増加しており、疾病の予防、早期発見、早期治療の大切さが、若い世代に理解されてきていることが要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療の推進

指標②	がん検診を受けている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	%	57.1	58.7	56.9	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は56.9%で、平成29年度より1.8ポイント、後期基準値より0.2ポイント減少していますが、横ばいの状態です。 (原因) 50歳以上の各年代は、ほぼ60%を超えています、横ばいで推移しており、また、20歳代では約16%、30歳代では約33%の低い割合で推移していることが要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (中)

基本事業03 母子保健の充実

指標①	乳幼児健診の平均受診率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	健康課	%	93.6	97.1	97.6	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は97.6%で、後期基準値より4.0ポイント、平成29年度より0.5ポイント増加しています。 (原因) 全ての乳幼児健診の受診率において後期基準値を上回っており、3~4か月児健診、1歳6か月児健診及び3歳児健診においては全国や県の平均を上回っています。未受診者への対応について見直しを実施しており、特に平成27年度以降はハガキ、電話、訪問による受診勧奨を毎月実施していることが要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 母子保健の充実

指標②	3歳児健診受診者1人当たりのむし歯本数				単位	基準値(H26)	実績値(H29)	実績値(H30)	目標値(R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	下がると良い	健康課	本	0.89	0.65	0.8	0.8	
評価	(状況) 平成30年度は0.80本で、平成29年度より0.15本増加していますが、後期基準値より0.09本減少し、後期目標値を達成しています。 (原因) 3~4か月児健診での健康教育や、平成28年度より開始した1歳児育児体験事業(1歳児come☆かむ広場)における歯磨き指導や1歳6か月児健診、2歳6か月児歯科健診でのフッ素塗布等において、乳幼児期からの歯の健康の重要性を伝えることで、歯科保健の大切さが浸透してきたことが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業03 母子保健の充実

指標③	1歳6か月児健診の四種混合、麻しん、風しんワクチンの終了者割合				単位	基準値(H26)	実績値(H29)	実績値(H30)	目標値(R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	健康課	%	92.8	95.8	96.4	95	
評価	麻しん、風しんワクチンの定期接種期間は1歳以上2歳未満です。 (状況) 平成30年度は96.4%で、平成29年度より0.6ポイント、後期基準値より3.6ポイント増加し、後期目標値を達成しています。 (原因) 全ての対象者に予防接種手帳を送付するとともに、未接種者に対しては、各種健診時等において接種勧奨を行っていることが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業03 母子保健の充実

指標④	出産後の支援について満足している者の割合				単位	基準値(H26)	実績値(H29)	実績値(H30)	目標値(R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	健康課	%	—	88.1	87.6	→	
評価	(状況) 平成30年度は87.6%で、平成29年度より0.5ポイント減少していますが、平成27年度の87.5%より0.1ポイント増加しています。 (原因) 産前産後サポート事業や新生児訪問事業等を実施していることや、病院を含め各機関で出産後の支援を実施していることが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業03 母子保健の充実

指標⑤	1歳6か月児健診の経過観察者割合				単位	基準値(H26)	実績値(H29)	実績値(H30)	目標値(R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	下がると良い	健康課	%	33.8	28.3	30.4	41	
評価	(状況) 平成30年度は30.4%で、平成29年度より2.1ポイント増加していますが、後期基準値より3.4ポイント減少しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 幼児期への移行期である1歳児の親へ具体的な接し方の理解と実践を通して子どもの健やかな成長発達を促すことを目的とした1歳児育児体験事業(1歳児come☆かむ広場)を、平成28年度から実施したことにより、望ましい育児の方法を理解し、家庭での実践につながっていることが要因の1つと考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 食育の推進

指標①	朝食を食べている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	%	71.8	73.9	73.3	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は73.3%で、平成29年度より0.6ポイント減少していますが、後期基準値より1.5ポイント増加しています。 (原因) 年代別の摂取状況において、70歳から74歳までの方が、後期基準値より6.1ポイント増加したことが要因と考えられます。仕事を引退している方が多いとされる60歳代以降の方が、学生や就労している方が多い20歳代から50歳代までと比べて朝食を食べている割合が高いことから、朝食の摂取には時間的な余裕も影響することが考えられます。</p>								☀️ (横ばい)
									☀️ (横ばい)

基本事業04 食育の推進

指標②	主食、主菜、副菜のそろった食事をとっている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康課	%	46.5	51.4	50.5	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は50.5%で、平成29年度より0.9ポイント減少していますが、後期基準値より4.0ポイント増加しています。 (原因) 60歳未満の各年代では低い割合での推移となっておりますが、60歳以上では、いずれも55%以上の割合と順調に推移しています。60歳以上の市民が健康のためにバランスの良い食事を意識し、実践していることが要因と考えられます。</p>								☀️ (横ばい)
									☀️ (横ばい)

基本事業04 食育の推進

指標③	朝食を毎日食べている小学6年生の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	健康課	%	89.4	87.4	88.8	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は88.8%で、平成29年度より1.4ポイント増加していますが、後期基準値より0.6ポイント減少しており、横ばい状態です。 (原因) 平成29年度と比較して「まったく食べていない」が0.4ポイント減少しているものの、「どちらかといえば食べている」も1.3ポイント減少しており、就寝・起床時間等の生活リズムや保護者の食意識などの生活習慣の影響が要因と考えられます。</p>								☁️ (横ばい)
									☁️ (横ばい)

基本事業04 食育の推進

指標④	朝食を毎日食べている中学3年生の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	健康課	%	84.5	82.9	79.1	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は79.1%で、平成29年度より3.8ポイント、後期基準値より5.4ポイント減少しています。 (原因) 平成29年度と比較して、「まったく食べていない」が1.6ポイント増加し、「あまり食べていない」が0.4ポイント増加しており、ライフスタイルや価値観の多様化に伴う生活習慣の影響が要因と考えられます。</p>								☔️ (低下)
									☔️ (低下)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業05 医療体制の充実

指標①	塩釜地区休日急患診療センター等の受診者数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき																
		代替	業務取得	その他	健康課	人/年	1,683	1,497	1,450	—																
評価	<p>(状況) 平成30年度は1,450人で、平成29年度より47人、後期基準値より233人減少しています。</p> <p>(原因) インフルエンザ等の流行性疾患や気候変動により受診者数は毎年増減しますが、受診者の内訳として、休日1,166人、土曜日準夜帯150人、歯科134人となっており、日曜、祝日などに急病となった市民が応急の初期診療を適切に受けることができていると考えられます。</p>				<p>(人/年)</p> <table border="1"> <caption>受診者数実績値 (人/年)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (人/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>1,683</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1,420</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1,497</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1,450</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,450</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>1,450</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>1,450</td> </tr> </tbody> </table>					年度	実績値 (人/年)	H26	1,683	H27	1,420	H28	1,497	H29	1,450	H30	1,450	H31	1,450	R02	1,450	目標 達成度
					年度	実績値 (人/年)																				
H26	1,683																									
H27	1,420																									
H28	1,497																									
H29	1,450																									
H30	1,450																									
H31	1,450																									
R02	1,450																									

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 03 子育て支援の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
子どもとその保護者	安心して子どもを育てられる環境が整っています。

施策の成果状況と評価

指標①	安心して子どもを育てられる環境が整っていると思う保護者割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
	子育て支援課			%	66.9	71.4	76.5	→	☀ (向上)
	中学生以下の子どもを持つ保護者対象								☀ (向上)
評価	<p>(状況) 平成30年度は76.5%で、平成29年度より5.1ポイント、後期基準値より9.6ポイント増加しており、順調です。 (原因) 子ども・子育て支援新制度開始後、教育・保育施設の整備や子育てサポートセンター等の子育て支援拠点が充実していることが、要因の1つと考えられます。一方、「環境が整っていない」と回答した方からは、教育・子育てに係る支援の拡充や通学路の整備等への意見も寄せられていることから、施策を超えた総合的な取組みも必要と考えられます。</p>								目標 達成度
									☑ (達成)

指標②	この地域で、今後も子育てしていきたいと思う保護者割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	課独自調査	上がると良い						
	子育て支援課			%	—	96.9	94.5	→	☀ (横ばい)
	3歳児の子どもを持つ保護者 (3歳児健診時のアンケート調査)								☀ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成30年度は94.5%で、平成29年度より2.4ポイント減少し、平成27年度の94.4%より0.1ポイント増加していますが、統計誤差の範囲で、引き続き高い値を維持しています。 (原因) 幼児を持つ保護者は子育てするうえで住みやすいまちと捉えていることが要因と考えられます。「どちらかといえばそう思わない(4.6%)」「そう思わない(0.8%)」と回答した方でも、子育てサポートセンターや児童館を利用している割合が高いことから、子育て支援に対する満足度が高いと考えられます。</p>								目標 達成度
									☑ (高)

□基本事業の成果状況と評価

- 基本事業 01 就学前の教育・保育施設等の充実
- 基本事業 02 地域における子ども・子育て支援の充実
- 基本事業 03 子育ての不安の解消
- 基本事業 04 子育ての経済的負担の軽減

基本事業01 就学前の教育・保育施設等の充実

指標	教育・保育施設等の待機児童数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	①	成果	業務取得	下がると良い	保育課	人	72	66	70	0
評価	各年度4月1日現在の数値です。国定義待機児童数とは異なります。 (状況) 平成30年4月1日現在のの実待機児童数は70人で、平成29年4月1日時点より4人増加、後期基準値より2人減少しており、横ばいです。 (原因) 未就学児の人口は微減傾向にあるものの、申込者数は増加しており、就労する保護者の増加などにより、保育需要が増加傾向にあることが要因と考えられます。平成30年4月に新たに認可保育所1か所が開設され、入所定員数は増加しましたが、待機児童は減少しませんでした。									

基本事業01 就学前の教育・保育施設等の充実

指標	教育・保育施設等の定員数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	②	代替	業務取得	上がると良い	保育課	人	900	1,208	1,265	1,452
評価	各年度4月1日現在の数値です。 (状況) 平成30年4月1日現在のの入所定員数は1,265人で、平成29年4月1日より57人、後期基準値より365人増加しており、順調です。 (原因) 平成30年4月に認可保育所1か所が開設したことにより、入所定員数が増加していることが要因です。一方で、教育・保育施設等用地となる適地が少ないことや保育士不足により、大きな向上は望めない状況です。									

基本事業01 就学前の教育・保育施設等の充実

指標	地域型保育事業の数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	③	成果	業務取得	上がると良い	保育課	箇所	0	7	7	6
評価	各年度4月1日現在の数値です。 (状況) 平成30年4月時点は7か所で、平成29年4月と同数ですが、後期基準値より7か所増加しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 早期の待機児童解消を目指して、平成27年度に待機児童数の多い3歳未満児を受け入れる施設として積極的に整備を行ったことが要因です。									

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

指標	市の子育て相談ができる場を知っている保護者割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	①	成果	市民アンケート	上がると良い	子育て支援課	%	—	90.2	84.4	→
評価	小学生以下の子どもを持つ保護者対象 (状況) 平成30年度は84.4%で、平成29年度より5.8ポイント、平成27年度の90.7%より6.3ポイント減少しています。 (原因) 小学生以下のお子さんがある保護者アンケートで、平成29年度と比較して「知らない」が2.2ポイント、「無回答」が17.1ポイント増加しています。市民アンケートと同時期に子どもに関するアンケートが2件行われ、対象者数を縮小したことが要因の1つと考えられます。一方、無関心層に対して様々な手段で情報提供していく取組も必要と考えられます。									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

指標②	地域子育て支援拠点箇所数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	子育て支援課	箇所	3	3	3	4	☁️ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成30年度は、子育てサポートセンター、鶴ヶ谷児童館及び西部児童センターの3か所で開催しており、後期基準値及び平成29年度の現状を維持し、横ばいです。</p> <p>(原因) 子育て支援拠点3か所が連携し、定期的に情報交換を行うほか、母子包括支援事業と連携した子育て世代包括支援センターとして妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の仕組みづくりをしていることが要因です。</p>								<p>目 標 達成度</p> <p>■ ■ (中)</p>	

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

指標③	放課後児童クラブの入級可能定員数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	子育て支援課	人	320	600	680	566	☀️ (向上)
評価	<p>(状況) 平成30年度は680人で、後期基準値より360人、平成29年度より80人増加し、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 平成29年度に山王小学校の2支援単位の施設整備を行い、平成30年度は、17支援単位となったことが要因です。</p>								<p>目 標 達成度</p> <p>👑 (達成)</p>	

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

指標④	一時預かり・病後児保育の利用可能定員数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	保育課	人	8,660	11,362	11,326	12,140	☀️ (向上)
評価	<p>各年度4月1日現在の数値です。</p> <p>(状況) 平成30年度は11,326人で、平成29年度より36人減少していますが、後期基準値より2,666人増加しています。</p> <p>(原因) 各施設1日当たりの利用可能定員数に変更はありませんが、祝日や曜日のならびにより年間の開所日数が変動したことが要因です。</p>								<p>目 標 達成度</p> <p>■ ■ (低)</p>	

基本事業03 子育ての不安の解消

指標①	自分の子ども(乳幼児)に対して、育てにくさを感じている乳幼児を持つ保護者割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	課独自調査	下がると良い	子育て支援課	%	—	22	21.9	➔	☀️ (横ばい)
評価	<p>3歳児の子どもを持つ保護者(3歳児健診時のアンケート調査)</p> <p>(状況) 平成30年度は21.9%で、平成27年度の30.5%より8.6%ポイント減少し、平成29年度の水準を維持しており、順調です。</p> <p>(原因) この指標は3歳健診時の調査によるもので「育てにくさを感じている」と回答した保護者のうち、相談先を知っているかとの問いに66.2%が「知っている」と回答しており、乳幼児を持つ保護者への支援体制が概ね認知されていること、また10月から子育て世代包括支援センターが開始したことにより、相談窓口が明確化されたことも要因と考えられます。</p>								<p>目 標 達成度</p> <p>■ ■ (高)</p>	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 子育ての不安の解消

指標②	家庭児童相談人数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	子育て支援課	人	355	227	274	—	
評価	<p>(状況) 平成30年度は274人で、後期基準値よりも81人減少していますが、平成29年度より47人増加しています。 (原因) 相談内容としては、「虐待」に関する相談は149人で、平成29年度より51件増加しています。平成29年度から引き続き心理的虐待(面前DV)による警察からの通告が増えたほか、虐待死亡事件の報道等による影響が、要因と考えられます。</p>								目標 達成度	---

基本事業03 子育ての不安の解消

指標③	家庭児童相談件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	子育て支援課	件	5,446	3,794	5,728	—	
評価	<p>来所、訪問、電話等で相談対応を行っています。 (状況) 平成30年度は5,728件で、後期基準値より282件、平成29年度より1,934件増加しています。 (原因) 相談件数の増加に伴い、来所、電話による相談対応、家庭訪問のほか、関係機関との協議や情報共有、連絡調整などが増えたことが要因と考えられます。</p>								目標 達成度	---

基本事業04 子育ての経済的負担の軽減

指標①	子育て経済負担の軽減総額				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	子育て支援課	百万円	1,592	1,522	1,538	—	
評価	<p>年度内の軽減総額 (状況) 平成30年度は約15億38百万円で、後期基準値より54百万円減少し、平成29年度より16百万円増加しています。 (原因) 後期基準値となる平成26年度は、子育て世代臨時福祉給付金の実施により高い値となっていますが、平成27年度以降、児童数の減少に伴い児童手当等は減少しています。ただし、子ども医療費の助成対象児童の年齢拡大により、医療費助成が増加したため、大幅な軽減総額の減少とはなっていません。</p>								目標 達成度	---

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 04 高齢者福祉の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
高齢者	高齢者が自立し、健康に暮らしています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自立高齢者の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護福祉課	%	83.7	84.2	84	82
評 価	(状況) 平成30年度は84.0%で、平成29年度より0.2ポイント減少しているものの、後期基準値より0.3ポイント増加しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 全国的に高齢化が進み、本市においても同様の状況のため要介護認定者数の増加が見込まれるものの、介護予防事業(新総合事業)の推進により、抑制が図られたことが要因と考えられます。								目標 達成度
									☑ (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01	生きがい活動の推進
基本事業 02	介護予防の推進
基本事業 03	日常生活の支援
基本事業 04	地域包括ケアの充実
基本事業 05	認知症対策の推進

基本事業01 生きがい活動の推進

指標①	生きがいを持っている高齢者の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	介護福祉課	%	83.1	85.7	86.1	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は86.1%で、後期基準値より3.0ポイント、平成29年度より0.4ポイント増加しており、順調に推移しています。 (原因) 趣味・学習・運動・スポーツ等に生きがいを感じる高齢者の割合が向上しており、特に「趣味・学習」に生きがいを感じる割合が55.9%で、平成29年度からの増加幅が4.1ポイントで他の選択肢より大きくなっています。さらに年齢別でみると、特に75歳以上での割合が5割を超え55.0%であったことから、生活環境が改善され自ら生きがいを見いだす高齢者の増加が、成果向上の大きな要因と考えられます。</p>								指標のうごき (横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業02 介護予防の推進

指標①	介護保険の認定を新たに受けた市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	その他	介護福祉課	%	3.5	3.4	3.4	4
評価	<p>(状況) 平成30年度は3.4%で、後期基準値より0.1ポイント減少していますが、平成29年度と同じ数値を維持していることから、横ばいです。 (原因) 地域で取り組まれている活動に対する各種支援メニューの利用が増加傾向にあることから、高齢者が外出し、人と接するきっかけが増加し、介護予防につながったことが要因と考えられます。</p>								指標のうごき --- 目標達成度 ---

基本事業02 介護予防の推進

指標②	介護予防のための行動平均実践項目数 (65歳以上の高齢者)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	介護福祉課	項目	6.6	7.39	7.33	→
評価	<p>(状況) 平成30年度は7.33項目で、平成29年度より0.06項目減少しているものの、後期基準値より0.73項目増加していることから、順調に推移しています。 (原因) 介護予防活動の必要性を広めるため、多賀城跡あやめまつり等の各種イベントでご当地体操や地区活動の周知を行った結果、意識付けにつながったことが要因と考えられます。</p>								指標のうごき (横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業03 日常生活の支援

指標①	新しい介護予防・日常生活支援総合事業サービスの利用者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	その他	介護福祉課	人/年	—	436	421	600
評価	<p>(状況) 平成30年度は421人で、平成29年度より15人減少していますが、平成28年度の365人より56人増加しています。 (原因) 地域における介護予防活動が広く展開されていることで、健康寿命の延伸につながったことが要因と考えられます。</p>								指標のうごき --- 目標達成度 ---

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 地域包括ケアの充実

指標 ①	連携している在宅医療機関、介護事業所の数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	介護福祉課	箇所	—	55	65		➔
評価	実績値は、平成28年度を初年度とする累計です。			(箇所) 						☀ (向上)
	(状況) 平成30年度は65か所、平成29年度より10か所、平成28年度の39か所より26か所増加しています。 (原因) 認知症施策で関わりを持つ機会が増えた医療機関や新たに指定を受けた介護事業所が研修に参加したことが主な要因と考えられます。									目標 達成度

基本事業05 認知症対策の推進

指標 ①	認知症の方への対応方法を知っている市民数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	介護福祉課	人	920	2,479	3,070		3,770
評価	認知症サポーター養成講座の受講者数(累計)			(人) 						☀ (向上)
	(状況) 平成30年度は3,070人で、後期基準値より2,150人、平成29年度より591人増加しており、順調に推移しています。 (原因) 一般市民や企業向けの出前講座について、講師を依頼しているキャラバン・メイトと連携し、積極的に講座を実施していることや、平成27年度から継続実施している中学生向け講座の実施校が2校から3校に拡大したことで、認知症を理解する方が増えてきたことが要因と考えられます。									目標 達成度

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 05 障害者（児）福祉の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
障害者（児）とその家族	障害者（児）がその適性や能力に応じて、安心して暮らしています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	障害者（児）がその適性や能力に応じて、安心して暮らしていると思う割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	課独自調査	上がると良い	社会福祉課	%	60.6	62.8	—	→
評 価	障害者福祉計画策定時実施のアンケートによる取得数値								
	(状況) 障害者福祉計画アンケートは、計画策定の時期にあわせて実施するため、平成30年度は現状値を取得できていません。				<p>(%)</p> <p>100 90 80 70 60 50</p> <p>H26 H27 H28 H29 H30 H31 R02</p>				目 標 達 成 度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 自立支援の推進
基本事業 02 地域生活支援事業の利用促進
基本事業 03 児童発達支援の充実
基本事業 04 各種手当給付・医療費等助成事業の充実

基本事業01 自立支援の推進

指標①	自立支援給付の延べ利用者数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	人/年	720	1,091	1,118	—	
評価	(状況) 平成30年度は1,118人で、後期基準値より398人、平成29年度より27人増加しています。 (原因) 障害者の人数増によって、全体的にサービス利用が増加していることが要因です。特に、短期入所利用者が増加しており、サービス利用に必要となる計画相談件数も増加しています。									目標達成度

基本事業01 自立支援の推進

指標②	入所施設から地域生活へ移行した人数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	人/年	0	1	0	—	
評価	(状況) 平成30年度は0人です。 (原因) 平成30年度は入所施設を退所し、地域生活へ移行した方がいなかったことが要因です。									目標達成度

基本事業02 地域生活支援事業の利用促進

指標①	地域生活支援事業の延べ利用者数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	人/年	11,432	10,278	9,672	—	
評価	(状況) 平成30年度は9,672人で、後期基準値より1,760人、平成29年度より606人減少しています。 (原因) 就労等への移行による地域活動支援センター利用者数の減少及び相談回数が多い利用者が入院等したことによる相談件数の減少が主な要因と考えられます。									目標達成度

基本事業03 児童発達支援の充実

指標①	適切な療育サービスが受けられていると思う保護者割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	社会福祉課	%	—	100	100	→	
評価	児童発達支援利用者対象のアンケート指標です。 (状況) 平成30年度も100%で、平成29年度同様に、後期基準値を達成しています。 (原因) 個別支援計画を作成し、専門職による適切な療育を行うことで保護者の不安軽減や児童の成長につながっていることが要因と考えられます。									目標達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 児童発達支援の充実

指標②	発達相談を受けた児童の数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	人/年	74	147	179	—	
評価	(状況) 平成30年度は179人で、後期基準値より105人、平成29年度より32人増加しています。 (原因) 平成27年度に児童発達支援センターが開設したことが、要因と考えられます。制度周知や関係機関による働きかけも進んでいることから、相談者が増大していると考えられます。				(人/年) 				目標 達成度	
					---	---				

基本事業04 各種手当給付・医療費等助成事業の充実

指標①	延べ特別障害者手当等給付件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	件/年	887	734	836	—	
評価	(状況) 平成30年度は836件で、後期基準値より51件減少していますが、平成29年度より102件増加しています。 (原因) 平成29年度と比べ、新規受給者が増加したことが要因です。				(件/年) 				目標 達成度	
					---	---				

基本事業04 各種手当給付・医療費等助成事業の充実

指標②	延べ医療費助成件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	国保年金課	件/年	26,571	28,346	27,644	—	
評価	(状況) 平成30年度は27,644件で、後期基準値より1,073件増加し、平成29年度より702件減少しています。 (原因) 心身障害者医療費助成制度に優先し適用されていた東日本大震災の被災者に対する医療費一部負担金免除制度のうち、受給対象者の半数以上を占めていた後期高齢者医療保険被保険者に対する一部負担金免除制度が、平成27年度で終了したため、平成28年度以降の助成件数が大幅に増加したことが要因と考えられます。ただし、受給対象者数が微減したため、平成29年度より助成件数は減少しています。				(件/年) 				目標 達成度	
					---	---				

政策 02 元気で健やかに暮らせるまち

施策 06 社会保障等の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	社会保障制度等により、市民の生活基盤が確保されています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	—			単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
			その他						
	国の政策等の影響が大きいため成果指標は設定していません。								
評 価									---
									目 標 達 成 度

□基本事業の成果状況と評価

- 基本事業 01 保険制度の適正な運営
- 基本事業 02 生活保護者（世帯）への自立支援
- 基本事業 03 公営住宅の充実
- 基本事業 04 被災者への生活再建支援
- 基本事業 05 生活困窮者への自立支援
- 基本事業 06 介護保険サービスの適切な利用

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標①	国民健康保険税の現年度収納率				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	93	94.4	94.1	91.2	
評価	(状況) 平成30年度は94.1%で、平成29年度より0.3ポイント減少したものの、後期基準値より1.1ポイント増加し、後期目標値を達成しています。 (原因) 平成28年度から平成30年度まで3年連続で低所得者層に対する軽減措置が拡充され、国民健康保険税負担の軽減が図られたことなどが要因と考えられます。									☀ (横ばい)
					目標達成度	☑ (達成)				

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標②	介護保険料の現年度収納率				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護福祉課	%	99	99.2	99.4	98	
評価	(状況) 平成30年度は99.4%で、平成29年度より0.2ポイント増加しており、後期基準値より0.4ポイント増加しています。 (原因) 平成27年度から低所得者段階(第1段階)の被保険者に対する軽減措置の実施により、保険料負担の軽減が図られたことが、要因の1つと考えられます。また、収納担当課における未納対策強化も要因の1つと考えられます。									☀ (横ばい)
					目標達成度	☑ (達成)				

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標③	後期高齢者医療保険料の現年度収納率				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	99.5	99.3	98.9	99.3	
評価	(状況) 平成30年度は98.9%で、後期基準値より0.6ポイント、平成29年度より0.4ポイント減少しています。 (原因) 後期高齢者医療制度被保険者数の増加に伴い、年金等からの天引きによらない普通徴収により保険料を納付する被保険者数も増加していることが要因と考えられます。									☁ (横ばい)
					目標達成度	☑ (高)				

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標④	1人当たり医療費				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	その他	国保年金課	円/年	332,887	374,251	379,320	388,000	
評価	(状況) 平成30年度は379,320円で、後期基準値より46,433円、平成29年度より5,069円増加しています。 (原因) 国民健康保険被保険者数の減少に伴い、医療費総額は減少しているものの、高齢者の加入割合が高くなっていることが要因と考えられます。									---
					目標達成度	---				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 生活保護者（世帯）への自立支援

指標①	自立による生活保護廃止世帯数（累計）				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	生活支援課	世帯	25	43	61	100	
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)									☀ (横ばい)
	<p>(状況) 平成30年度は18世帯で、累計が61世帯となっています。 (原因) 就労支援員を配置し、ハローワーク等への同行などを実施していますが、就労支援には時間を要することから、大きな成果につながっていないと考えられます。</p>									■ ■ (中)

基本事業03 公営住宅の充実

指標①	市営住宅に入居し住宅が確保された世帯数（入居世帯数）（累計）				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	世帯	6	29	54	50	
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)									☀ (向上)
	<p>(状況) 平成30年度は25世帯で、累計が54世帯となっており、後期目標値を達成しています。 (原因) 被災者に限定していた災害公営住宅の入居対象者について、平成29年12月募集分から、一般の方も対象とするよう入居対象者を拡大したことが要因です。</p>									🏠 (達成)

基本事業03 公営住宅の充実

指標②	施設維持管理上の苦情件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	都市計画課	件/年	65	6	1	60	
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)									☀ (向上)
	<p>(状況) 平成30年度は1件で、後期基準値より64件、平成29年度より5件減少し、後期目標値を達成しています。 (原因) 専門性が高い宮城県住宅公社に管理代行していることで、苦情が発生する前の点検等で事前保全が図られていることが要因と考えられます。</p>									🏠 (達成)

基本事業04 被災者への生活再建支援

指標①	加算支援金申請割合（住宅再建）（基礎支援金ベース）				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	生活支援課	%	86.6	95.9	97.4	95	
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)									☀ (向上)
	<p>(状況) 平成30年度は97.4%で、後期基準値より10.8ポイント、平成29年度より1.5ポイント増加し、後期目標を達成しています。 (原因) 加算支援金未申請世帯にアンケート調査を実施し、その結果から、電話や訪問を通じて住宅再建の方法に応じた案内を行ったことが要因と考えられます。</p>									🏠 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 被災者への生活再建支援

指標②	仮設住宅（民間賃貸を含む）入居世帯数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	下がると良い	生活支援課	世帯	968	0	—	0	0	---
評価	(状況) 平成29年度をもって仮設住宅の供与を終了しています。									目標 達成度	🏰 (達成)

基本事業04 被災者への生活再建支援

指標③	被災者の災害公営住宅への入居割合				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	都市計画課	%	30.1	100	100	100	100	☀️ (横ばい)
評価	(状況) 平成28年度に入居が完了し、平成30年度は100%となっています。 (原因) 平成28年12月の宮内住宅の完成により、市内全ての災害公営住宅の整備が完了し、全532戸に入居が完了しています。									目標 達成度	🏰 (達成)

基本事業05 生活困窮者への自立支援

指標①	支援により課題が解決した人数（累計）				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	生活支援課	人	—	222	375	840	840	☀️ (横ばい)
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方) (状況) 平成30年度は新規相談受付相談件数275件のうち153人(56%)が課題解決し、累計は375人となっています。 (原因) 平成27年度に自立相談支援窓口を設置し、市民等から相談機関として認知され、年々相談件数が増加し、関係機関へつなぐなどの連携体制が構築されたことが要因と考えられます。									目標 達成度	■ ■ ■ (中)

基本事業06 介護保険サービスの適切な利用

指標①	施設サービスを利用している市民数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	代替	業務取得	その他	介護福祉課	人	290	433	438	463	463	---
評価	(状況) 平成30年度は438人で、後期基準値より148人、平成29年度より5人増加しています。 (原因) 平成29年7月に開所した認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム、定員27人)が要因の1つと考えられます。									目標 達成度	---

□基本事業の成果状況と評価

基本事業06 介護保険サービスの適切な利用

指標②	介護サービス事業者・施設への実地指導件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	その他	介護福祉課	件/年	1	3	4	3	
評価	(状況) 平成30年度は4件で、後期基準値より3件、平成29年度より1件増加しています。 (原因) 計画的な実施に努めていることが要因です。				(件/年)					目標達成度
